

## 赤こんりポート

東恵子リポーター



## 共に生きられる地域へ

市障がい児者保護者連絡協議会の勉強会が11月25日、「きょうだいとしての本当の気持ち その思いに向き合う」と題して桐原コミュニティセンターで開催されました。

6歳下にダウン症の弟がいるおうみ福祉会の長谷川寛人さんは「弟に勉強を教えたい」と特別支援教育を学ぶうちに支援員の仕事に出会いました。蒲生野会の藤宮裕憲さんは、近所から苦情が出る姉の行動に母が「しょうがないねん」「ごめん」と言うのがつらかったそうです。事故で障がいを負った弟がいるわたむきの里福祉会の酒井了治さんは「親御さんは、子どもたち一人ひとりに愛情を注いで」と話しました。3人は『社会の子』として受け止められるよう、地域の応援団作りのために皆さんも活動してほしい」と保護者に向けてエールを送りました。

## 赤こんりポート

渥美勉リポーター

「アートでおしゃべり」対話型鑑賞  
in 市美術展覧会が盛況

11月29日～12月1日の3日間、市美術展覧会の出展作品をおしゃべりしながら鑑賞する対話型鑑賞会が行われました。平面・立体・書・工芸・写真と多彩な作品がある中、1つの作品をじっくりと鑑賞し、感じたことや気付いたことを参加者同士で話していると、自分だけでは気付かなかった作品の魅力がどんどんあふれ出し、大変盛り上がりました。参加者からは「自由な視点でモノ・コトを感じる習慣がつけば、人間関係や自身が生きる環境が豊かになる」「私の子どもはすでに社会人だが、今日の方法を幼稚園時代から取り入れて子育てがしたかった」といった意見がありました。



## 赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

学校に行きたくない子たちに寄り添い、  
学校に戻れるようになるまで見届ける

出町に拠点をもつふるおるすりーるグループの加藤光治さんは、学習塾やフリースクール、マルシェを運営・主催するなど、書ききれないほどいくつもの顔を持っている元教師。特にフリースクールでは、心の支援や勉強の支援、マルシェの運営サポートなどを通して、人との関わりを学ぶ支援など、多方面からアプローチをかけています。加藤さんは、自信をつけてまた学校という「居場所」に戻っていく生徒を何人も見届けたそう。不登校に関する理解を深める講演活動にも積極的で、「同じ想いを持つ仲間を増やし、自分だけでは救えなかった子たちをもっと救ってきたい」と熱い想いを語っていました。

## 赤こんりポート

馬場利男リポーター

まぶち子ども体験フェスタ2023  
「スポーツ鬼ごっこ」

11月18日に、スポーツ鬼ごっこが馬淵学区まちづくり協議会の主催で馬淵小学校体育館で行われ、児童と保護者33人が参加しました。スポーツ鬼ごっこは、時間内にトレジャー(宝)を多くハント(獲得)したチームが勝ちとなる競技です。相手のトレジャーを取りに行くことも、自陣のトレジャーを守ることも重要です。敵陣でタッチされても、コートの外側から自分のエリア(安全地帯)へ戻ると再びコートに入ることができます。最初はみんな、トレジャーを取りに行くことばかりで自陣が手薄になり、簡単にトレジャーを取られていましたが、後半になると、守る役と取りに行く役を決めて簡単に取られなくなっていました。スポーツ鬼ごっこは楽しい軽スポーツで、児童たちも汗をかきながら楽しんでいました。

11月26日



## 親子で楽しくハイキングと芋掘り

八幡山の景観を良くする会の主催で、親子八幡山縦走ハイキングと芋掘り会が開催され、5家族17人が参加しました。八幡公園からスタートした参加者たちは道中、色づいた紅葉の前で立ち止まり記念撮影をしたり、出丸跡で八幡山の石垣や景色を堪能したり、急斜面の道に広がった落ち葉に足を取られて転んだり。4時間弱かけて百々神社までの道のりを歩き切りました。その後、サツマイモ畑がある中州にカヌーで移動して芋掘りを体験。子どもたちや家族は、土に隠れた大きなサツマイモを掘り上げると、喜びの大きな声とともに満面の笑顔になっていました。

12月10日



## さまざまな国の文化に触れよう

わいわいフェスタ2023が金田コミュニティセンターで、5年ぶりに開催されました。会場では、ミャンマー民族やペルー、中国民族などの舞踊やバンブーダンス、民族音楽の発表のほか、実行委員会の有志や外国籍住民による手作り料理の販売コーナーや、着物、書道、折り紙の体験コーナーが設けられました。参加者は、舞踊発表にリズムに合わせて掛け声や手拍子をしながら楽しみました。書道を体験したコンゴ共和国出身の男性は「書道は初めての体験。難しかったけど日本の文化を経験できて楽しかった」と笑顔で話しました。フィナーレでは、西アフリカの伝統曲「ドゥニヤマ」がアフリカン太鼓で演奏され、参加者は一緒に歌い、踊ってフェスタは最高潮を迎えました。

11月26日



## 思い出の詰まった人形に感謝を込めて

長光寺町にある長光寺で、柴燈護摩・人形護摩供養が営まれ、県内外から寄せられた人形が供養されました。人形供養は「廃棄するのが忍びない」という声に応え、毎年実施されています。ひな人形やフランス人形、ぬいぐるみなど約8,000体が境内に並べられ、山門近くの護摩壇の前では住職らが読経し、家内安全・無事息災・商売繁盛などを祈願しました。その後山伏姿の行者が、燃え盛る護摩壇にお正念が抜かれた人形を投げ入れると、長年共に過ごし思い出の詰まった人形に、参拝者らは感謝の意を込めながら手を合わせていました。

12月7日



## 「おうみはちまん」を花のまちに

新春を華やかに彩る寄せ植え教室が、馬淵コミュニティセンターで開催され20人が参加しました。講師を務めたのは、南津田町でガーデニングのアドバイスをしている西川新吾さん。参加者は、西川さんの活動内容やガーデニングのアドバイスを聞いた後、寄せ植えを開始。「背が高い花は奥に、低い花は手前に置き少し倒すことでより立体的に見えること。深く植え過ぎないこと。枯れた葉や広がり過ぎた花弁は、できるだけ取り除くこと」などのアドバイスを意識して完成させました。西川さんは「基本を守りながら、楽しんでやってもらうことで、美しいものが出来上がる。いろいろな人に作ってもらい、近江八幡市が花のまちとなればうれしい」と話していました。